



能勢ささゆり学園 能勢小学校 学校だより

ささゆり

8月(天地はじめてさむし 8/28~9/1)

秋の花が美しく、風情のある景色をつくりま
す。風や空、雲、月の見え方、様々なものの様子
が変わり、夏が過ぎ、秋がやってきたことをし
らせます。先日、能勢分校農場からデラウエア
のぶをいただきました。実りの秋です。

発行 Vo. 5 令和3(2021)年8月30日

8月6日 平和登校日 『平和は自分たちで創るもの・・・』

戦後76年。能勢町の小中学校では二度と戦争を繰り返さないために8月6日を平和登校日として位置づけ「戦争の悲惨さ・平和の尊さ」を学ぶ機会としています。

まず、学級ごとにテレビ放送による広島平和記念式典を視聴しました。続いて1・2年生は「声の宅配便」の方々に来ていただき「かわいそうなぞう」等の平和絵本の読み聞かせをしていただきました。3年生は「ながさきの子うま」、4年生は「いわたくんちのおばあさん」、5年生は「おかあさんの木」、6年生は「夏服の少女たち」など、絵本やDVDを通じて学習し「戦争と平和」について考えることができました。6年生はヒロシマ修学旅行へ持参する千羽鶴の協力を各学級へ出向いてお願いしました。一人ひとりが平和への願いを込めて鶴を折り、その思いを6年生に託して「能勢からヒロシマ」へ思いを届けてほしいと願っています。



6年生 『森プロジェクト』 のこぎりで木を切り・ロープで倒す体験



今年の6年生の総合的な学習のテーマが『森プロジェクト』。能勢の身近な里山の環境について、自分たちにできることは何か考えて学習を進めてきています。能勢町地域振興課・物産センター、能勢町森林組合の方々等にもお世話になっています。

7月27日は、6年生有志が学びの丘にある旧カブトムシの館の木をノコギリで切り倒しました。その木材をつかって学級園横の巨大カブトムシハウスに「小さな森」を作りました。

7月29日は能勢町物産センターで飼育してきたカブトムシの販売を行いました。この日に向けて準備を重ね、保護者の方にもご協力していただきながらの活動でした。

7月31日、吹田・豊中・能勢の子どもたちが参加した「能勢・里山デイキャンプ」が開催されました。学校博物館・学びの丘のホワイトハウス・親水広場・第2正門前とカブトムシハウスに分かれてワークショップがあり、そのブースを6年生3名が担当しました。「カブトムシの生態」についてプレゼンし、クイズも出してくれました。また、5年生以下児童の参加もあり、親水広場で小動物の上あごの骨(※脚注参照)を発見して校長室にもってきてくれた子たちがいました。さすが能勢っ子です。今後、動物博士に聞いて、学校博物館に展示する予定です。



※写真を撮って博物館に問い合わせしてみました。

学芸員いわく・・・最初はアライグマかと思いましたが「アナグマ」ですね。大白歯が立派です。そこそこ、歯がすり減っているの、寿命がつかたのか？アナグマは歳をとると下あごと上あごがかなりがっちり組み合わせられて死んでもはずれなくなるくらいなんです。見つけた場所に下あごや他の部位の骨が落ちているかもしれません。もし何かの動物がくわえてきたのであれば、タヌキあたりでしょうか？夜間でも使える自動撮影装置があるので、その沢の近くの獣道に仕掛けて一度調査してみると面白いですね。

パラリンピック 採火式 能勢からも「聖火」を送りました



8月24日から9月5日まで東京2020パラリンピックが行われています。8月16日、能勢町浄るりシアター前広場で「パラリンピック採火式」が行われました。本校から児童会代表の的場絢子さん、生徒会代表の岡崎康賢さんが学校代表として参加してくれました。

ギリシャで採火する五輪とは違い、パラの聖火は、各自治体が「共生社会実現」の願いなどを込めて趣向をこらします。能勢町では、松明（たいまつ）から地元産材の松のスウェーデントーチの上に松ぼっくりを置いて点火し、そこからランプに着火する方法がとられました。この一連の様子を三番叟人形が見守るというコンセプトで能勢らしい文化・歴史・環境などをPRする「採火式」となりました。

緊急事態宣言中ということもあって無観客での開催でしたが、ささゆり学園を代表してアスリートにエールを送ってくれました。能勢からの聖火は、いったん、大阪堺市に集められ、開会式に間に合うように東京・国立競技場へ運ばれたようです。

ささゆり学園 図書室へ行こう！ 読書で心の栄養をたくわえよう！

今年の夏休みは去年に続き、行動が制限されているなどところへお出かけできなかったご家族も多かったのではないのでしょうか？

2学期、まだまだ残暑は厳しいですが、これから本格的な秋を向かえます。そんな中、保護者の皆さんもお子さんと一緒に読書で心の栄養をたくわえてみられたらどうでしょうか。本からいろんなことが学べます。世界中どこにでも行けますし、宇宙にだって旅することもできます。知らないことを発見することも多いです。子どもが読書が好きになると、興味関心が広がるし、考える力も身につけてきます。いつでもどこでも本1冊あれば、暇つぶしにもなりますし、読み終えた本の内容を誰かに話してみたいくなるものです。是非、コロナ禍だからこそ、親子で読書を楽しんでみてください。



◆子育てに関する本の紹介① 「子育ては、ピンチがチャンス」

藤田絵里子・米澤好史：著 福村出版

巻頭に0歳児から5歳児まで、子育てや保育の現場に関わるすべての人に読んでいただきたい本とありますが、小中学校教育に関わる保護者、教職員、教育や福祉の仕事に関わる方々にオススメの本です。

……「子どもの行動には、すべてそうする理由、原因がある、…。」……

家庭や保育や教育の現場でおきている子育ての悩みをマンガイラストで描き、さまざまな子どもの愛着の問題の起こり方、その支援の仕方をわかりやすい表現で解説してあります。子どもの行動に寄り添い、できた喜びやつらい気持ちも一緒に分かち合い、子どもの発達のおよき伴奏者としての楽しさを実感できるタッチで具体的な発達支援のポイントがまとめられています。本町の教職員研修で過去2回講演いただいた和歌山大学米澤好史教授が監修されています。子育てに悩まれている保護者の方の参考になればと思います。興味のある方は、ご連絡ください。

司書の東澤先生がほぼ毎月、児童生徒のみなさんが本好きになるようにテーマを決め、そのテーマに関する本を集め、特設コーナーが更新されています。今は、入口横のコーナーには「はてな？きもち」科学の本・絵本が紹介されています。また、図書室内入りロメインコーナーのテーマは「月～moon～」です。写真上には「月のもようは日本ではウサギですが、外国ではどんなふうに見えるでしょうか？」と書かれています。ちなみにヨーロッパでは大きなハサミを持つ「〇ニ」、モンゴルでは家畜を追う生活のために「〇ヌ」に見えたようです。今年は21日頃が中秋の名月です。毎晩の読書、そして、月の観察も続けてみませんか？月の満ち欠けの観察もたのしいですよ。